

# 福祉生活病院常任委員会資料

(令和4年8月19日)

〔件 名〕

- 淀江産業廃棄物管理型最終処分場計画について  
(循環型社会推進課)・・・2
- 東郷湖羽合臨海公園パークビジョン検討会(第1回)の概要について  
(緑豊かな自然課)・・・5
- 山陰海岸ジオパークの世界再認定審査における審査員の決定について  
(山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館)・・・7
- (仮称)西部犬猫センターの整備計画について  
(くらしの安心推進課)・・・8
- 鳥取らしい“木を活かした塀”デザインコンテストの実施について  
(住まいまちづくり課)・・・10
- 令和3年度鳥取県天神川流域下水道事業の経営状況について  
(水環境保全課)・・・11
- 第13回中海会議の開催結果について  
(水環境保全課)・・・12
- 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について  
(水環境保全課)・・・16

生活環境部

## 淀江産業廃棄物管理型最終処分場計画について

令和4年8月19日  
循環型社会推進課

(公財)鳥取県環境管理事業センター(以下「センター」)は、県の地下水等調査会の結果を受けて臨時理事会で事業再開を決定した。この度、センターから県へ報告があったため、その概要を報告する。

### 1 センター臨時理事会の開催

- (1) 日時 令和4年7月22日(金)午前11時から午前11時35分
- (2) 場所 エキパル倉吉 1階 多目的ホール
- (3) 概要

鳥取県淀江産業廃棄物処理施設計画地地下水等調査会の調査結果を受けて、「事業計画を再点検するとともに、安全・安心な施設を設置するための対策に万全を期して、廃棄物処理法の施設設置許可に向けた準備を進める(再開する)」との方針案(資料1)が、理事全員の賛成で承認された。

※センターは、令和2年1月の理事会で「県が実施する地下水等調査の動向や進捗状況を見ながら、廃棄物処理法の施設設置許可に向けた今後のスケジュールを調整する」との方針を承認し、事業スケジュールの進捗調整を行ってきた。

### 2 センターから県への報告

- (1) 日時 令和4年7月28日(木)午後3時から午後3時15分
- (2) 場所 県庁第4応接室
- (3) 出席者 公益財団法人鳥取県環境管理事業センター理事長 岡本 康宏  
鳥取県副知事 亀井 一賀  
鳥取県生活環境部長 若松 紀樹

#### (4) 概要

センター理事長から、臨時理事会において方針案が議決され、今後事業再開し具体的に準備を進める旨の報告があった。特に地下水等調査結果を受けて、三輪山の清水や塩川の定期的なモニタリングを表明された(資料2)。併せて、県に対する財政支援や地元の地域振興事業へのサポート等について要請があった。

副知事は、県への要請に対して、どのように対応するかしっかりと検討する旨を回答した。

### 3 今後の予定

センターは、地元6自治会に対して事業再開の方針について文書で周知し、順次、地元6自治会へ説明を行う。

県は、最終的に処分場の安全が図られることが一番重要と考えており、センターの対応を踏まえ、しっかり検討した上で今後の対応を判断する。

## 第1号議案

## 「今後の事業進行」の件

淀江産業廃棄物管理型最終処分場の設置にかかる公益財団法人鳥取県環境管理事業センターの事業の進行について、定款第34条の規定により次のとおり承認を求める。

## 【方針案】

令和元年12月に「鳥取県淀江産業廃棄物処理施設計画地地下水等調査会条例」が制定され、当センターが産業廃棄物管理型最終処分場の設置を計画する米子市淀江町小波地区周辺の地層及び地質を県が調査して、計画地の地下水の流向等を把握することとされた。

これにより、当センターは県が行う調査の動向や進捗状況を見ながら、事業の進度調整を行ってきたところである。（令和元年度第4回理事会(令和2年1月24日)で方針決定）

このたび、令和4年7月に県の地下水等調査が終了し、調査結果が報告され、住民の方々が懸念されていた地下水の流向等が明らかにされたところである。

今後は、この結果を踏まえて、当センターは事業計画を再点検するとともに、安全・安心な施設を設置するための対策に万全を期して、廃棄物処理法の施設設置許可に向けた準備を進める（再開する）こととする。

## 【参考】「公益財団法人鳥取県環境管理事業センター定款」（抜粋）

（権限）

第34条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
  - (2) 理事の職務の執行の監督
  - (3) 理事長、副理事長及び専務理事の選定及び解職
- （以下略）

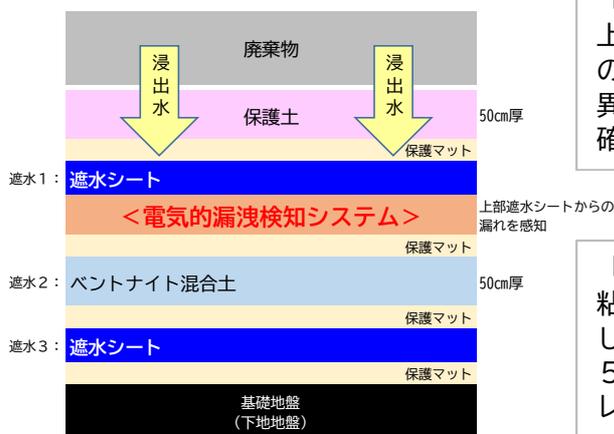
## 淀江産業廃棄物最終処分場計画における地下水の安全確保対策について

令和4年7月28日  
 (公財) 鳥取県環境管理事業センター

### ■ 地下水の安全確保に資する対策内容

#	対策項目	内容
1	3重の遮水構造	上部遮水シート+ベントナイト混合土+下部遮水シート → 国が定める構造基準(2重)を上回る対策
2	電氣的漏洩検知システム	上部遮水シートの破損・漏水を速やかに感知するシステム
3	周辺井戸の定期的なモニタリング	上流側(2本)、下流側(2本)のモニタリング井戸の定期的な水質監視
4	地下水集排水管内の水の常時水質監視+異常時の水処理施設への送水	埋立地の下部に敷設した地下水を集める管内の水質を自動監視し、異常感知時には、即時で水処理施設へ送水するシステムを構築
5	三輪山の清水の定期的な監視	定期的なモニタリングを実施
6	塩川の定期的な監視	定期的なモニタリングを実施(継続)

### 参考1：処分場底面部の遮水工の構造



「電氣的漏洩検知システム」とは  
 上部遮水シートの下面に敷設する検知システムで、浸出水の漏洩箇所が検知できる。  
 異常発報された場合、該当場所を掘り返し、遮水シートを確認して、必要な補修等の対策を実施する。

「ベントナイト」とは  
 粘土の一種で吸水性・膨潤性を持ち、高い止水性(水を通しにくくする性質)を有する。  
 50cmの厚さを水が通過するのに数十年以上を要するレベルの遮水能力がある。

### 参考2：管理型処分場の構造のイメージ図



左図の  
 ・モニタリング井戸(上流・下流側)  
 ・地下水集排水管  
 の地下水に対して、モニタリングを実施し、異常の有無の監視をしていく。

※図の出展  
 (NPO) 法人最終処分場技術システム研究会 HP の掲載図を一部改変し利用  
<http://www.npo-lsa.jp/iroha/index.html>

# 東郷湖羽合臨海公園パークビジョン検討会（第1回）の概要について

令和4年8月19日  
緑豊かな自然課

東郷湖羽合臨海公園を取り巻く社会情勢や周辺環境の変化等を踏まえ、広域公園が目指す今後の方向性を検討するため、地元関係者等との検討会を設置し、第1回検討会を開催したので、その概要を報告する。

## 1 背景

公園施設の老朽化の進行や利用者の伸び悩み、少子高齢化の進展と人口減少、コロナ禍における生活スタイルの変化、管理運営手法の多様化（民間活力の導入）など、東郷湖羽合臨海公園を取り巻く環境は変化してきている。

（参考）国における検討状況

「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」最終報告書（H28.5月 国土交通省都市局公園緑地・景観課）

→ 都市公園の量の整備を急ぐステージから、緑とオープンスペースが持つ多機能性を都市のため、地域のため、市民のために最大限引き出すことを重視する新たなステージへ移行すべき。

→ それぞれの公園の特性等に応じて目標を定め、様々な手法によりその実現を目指す取組が必要となり、マネジメント等策定の動きが広がっている。

## 2 目的

東郷湖羽合臨海公園の今後10年程度を見据えたパークビジョンを策定し、令和6年4月からの次期指定管理者の募集、選定等に反映するなど、ビジョンを踏まえて今後の公園の整備・管理運営を実施していく。

〔検討内容〕公園の管理運営の基本コンセプト（目指すべき姿）、運営方針 等

## 3 第1回検討会

（1）日時等 令和4年8月1日（月） 午後2時から午後3時まで（WEB方式）

（2）出席者 湯梨浜町、倉吉市、（一社）鳥取中部観光推進機構、湯梨浜町観光協会、認定NPO法人未来、県商工会連合会、県老人クラブ連合会、県PTA協議会、（一社）鳥取県造園建設業協会、事務局（県）

（3）議題 本検討会の趣旨・目的、東郷湖羽合臨海公園の現状と課題、検討のポイント(例)、今後のスケジュール、意見交換

（4）主な意見

- ・SDGsや自然環境、歴史、文化等にスポットを当て、コンセプトを持った特徴のある公園にしたい。
- ・ウォーキングやサイクルツーリズム、自然体験等の中部の拠点になればと考える。
- ・公園の快適性という点において、改善点は多い。
- ・県、湯梨浜町、周辺市町村、関係事業者が連携して検討していくべきである。
- ・東郷湖羽合臨海公園の広さ、景観の美しさを活かした活用策を検討していきたい。

## 4 今後の進め方

<令和4年度>

- ・検討内容に対するアイデア、意見等聴取
- ・パークビジョン（素案）作成
  - 次期指定管理者募集の仕様書（案）に反映する。

<令和5年度>

- ・パークビジョン策定
  - 次期指定管理者募集の仕様書等を確定する。
  - 継続して検討が必要な内容については引き続き検討する。

# 東郷湖羽合臨海公園「パークビジョン」検討会

社会情勢や周辺環境の変化等を踏まえ、東郷湖羽合臨海公園が目指す今後の方向性を検討  
(第1回：8月1日(月)開催)

## <パークビジョン検討会>

### ○今後10年程度を見据えた公園のビジョンを検討

公園の持続可能な維持・発展の方向性について検討を行い、地域の方に親しまれ、魅力ある公園を目指す。

#### 【検討のポイント(例)】

- 燕趙園の無料化を含めた施設のあり方
- ハワイ夢広場、スケートパーク等の有効活用・機能転換
- 宇野エリアキャンプ場の有効活用・民間活力の導入
- 木陰のある空間への転換(植栽、ベンチ・東屋等の適正配置)
- 各エリア・施設に即した管理(PFI導入、地元への施設の譲渡を含む)

#### ～検討会メンバー～

行政、観光事業者、経済団体、高齢者・子ども関係団体、地元関係者ほか

#### ～スケジュール(予定)～

<令和4年度中>

- ・公園の現状等を分析
- ・パークビジョン(素案)

<令和5年度中>

- ・パークビジョン策定→R6.4月次期指定管理

### <公園をとりまく環境変化>

#### ・東郷湖羽合臨海公園の現状

公園施設の老朽化の進行、利用者の伸び悩み

#### ・社会情勢、周辺環境の変化

少子高齢化と人口減少、コロナ禍における生活スタイル、管理運営手法の多様化・民との連携、新たな施設の建設、交通アクセス など



# 山陰海岸ジオパークの世界再認定審査における審査員の決定について

令和4年8月19日  
山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館

ユネスコ世界ジオパークの再認定審査における審査員が決定したので報告する。

## 1 審査員

シニア審査員 Mr Sigurveinson SIGURDUR (シガーベインソン・シガーダール：アイスランド)  
アイスランドのカトラジオパークに所属

審査員 Mr Azmil Munif MOHD BUKHAR (アズミル・ムニフ・モド・ブカール：マレーシア)  
マレーシアのランカウィジオパークに所属

## 2 現地審査日程案

審査員から来日日程の提案があり、セットで審査を受ける阿蘇ユネスコ世界ジオパークと調整した現地審査日程案をユネスコに報告している。今後、ユネスコからの回答を受けて、山陰海岸ジオパーク内での行程について各自治体及び事業者等と調整がなされる。

日程	行程等
10/8(土)～10/9(日)	出国、日本着→山陰海岸着
10/9(日)～10/13(木)	現地審査(山陰海岸ジオパーク)
10/13(木)	ジオパーク間の移動
10/13(木)～10/17(月)	現地審査(阿蘇ジオパーク)
10/18(火)～10/19(水)	阿蘇発→日本発、帰国

## 3 日本ジオパーク委員会による世界再認定審査の事前確認及び現地調査における助言への対応方針・取組状況 (事前確認 R3.8.28～30・オンライン形式、現地調査 R3.11.1～2)

助言事項	対応方針(⇒取組状況)
運営に携わる人たちの役割分担の可視化(特に構成自治体、事務局、地域団体の事業の関係性が伝わるようにする)	○プロGRESSレポート(現況報告書)の記載内容に対する助言であり、記載内容を修正する。 ⇒現地確認等で関わった事業者スタッフ等や、運営委員会や部会と協議会の関わりについて追加記載済。
地域を訪問する外国人観光客のニーズに合わせたパンフレットやウェブサイトの多言語化の推進	○現在の取組を引き続き進める。 ⇒英語版ウェブサイト令和4年度に完成予定であり、その後も取組を進める。 ※現地調査時に助言があった鳥取砂丘ビジターセンターでのQR(多言語二次元)コード使用方法に係る館内表記は対応済。
パートナーシップに関する今後の戦略の整理	○現在の取組を引き続き進める。 ⇒令和3年11月に締結済の3者のパートナーシップ協定をプロGRESSレポート(現況報告書)に追加記載済。ロゴマーク商品も含めその後も取組を進める。
ジオパーク関係者それぞれの活動と、ユネスコ世界ジオパークの理念やSDGsとの関連性の認識	○プロGRESSレポート(現況報告書)の記載内容に対する助言であり、記載内容を修正する。 ⇒普段の取組の多くが、結果的にSDGsの達成に繋がっていることを追加記載済。
運営組織内における女性の役割拡大	○女性スタッフの比率を高める。 ⇒部会委員を選定する際女性を考慮する。職員派遣の際に女性派遣への理解を求める。
将来的な運営組織の在り方の検討や玄武洞における地質資源の売上の停止に対する働きかけ及びガイドの質的確保	○運営組織の在り方の検討については、より良い組織を目指し、法人化も含め協議会の在り方を根本から議論していく。 ⇒協議会にWGを設置し、令和4年度末には一定の方向性が出せるよう議論している。 ○地質資源の売上(玄武洞ミュージアムショップ)の停止については、現在の働きかけを引き続き進める。 ⇒地質資源を販売する業者と引き続き対話や要請を進める。長いスパンの行程表を作っていく。 ○玄武洞の新たな指定管理者のもとで行うガイド活動の質的確保を図る。 ⇒兵庫県立大学指導のもと、解説用パネルや装置などを製作し質的向上を図る。

# (仮称) 西部犬猫センターの整備計画について

令和4年8月19日  
くらしの安心推進課

令和5年秋に西部総合事務所新棟に米子保健所が移転することに伴い、現保健所の敷地内にある犬管理所を(仮称)西部犬猫センターとして、官民連携により新たに整備するよう検討しているの、概要を報告する。

## 1 整備計画の概要

### (1) 整備予定地

- 皆生プレイパーク北側の一部(米子市皆生温泉3丁目18-3)  
・皆生プレイパークは県有地で、現在は民間団体に貸し付け、皆生トライアスロンの発着基地等に利用されている。

### (2) 施設計画案

敷地: 約1,500㎡

建物: 木造、延べ床面積: 約210㎡ (現犬管理所: 約110㎡)

愛護・管理	収容・飼養	付帯施設
・研修室 ・トイレ・倉庫 ・管理事務室	・犬・猫飼養室 (成犬5頭、子犬及び成猫12頭) ・処置室 ・シャワー室 ・隔離室	・駐車場 ・屋外休憩スペース



### (3) 整備方針

- ・猫の収容数、犬猫の苦情・相談が多い西部地区の現状を踏まえ、現施設に愛護機能を付加した施設を整備する。
- ・民間事業者・動物愛護団体・動物病院との連携、ボランティアとの協働など、官民連携により動物に最適な飼養環境を提供し、県民に親しまれる施設として整備・運営する。
- ・TNRや地域猫活動推進のため、動物病院と連携して飼い主のいない猫の不妊去勢手術機能を強化する。

## 2 整備手法

官民連携による効果が発現するよう運営者等が設計段階から関わり、維持・管理を見据えた効率的な施設整備やコスト削減が期待できるDBO方式を検討しており、DBO方式は県事業では初の取組となる。また、管理運営期間は民間事業者が安定的に運営できるよう10年間で検討している。

DBO方式: 公共団体等が資金調達し、民間事業者に設計 (Design)、建設 (Build)、運営 (Operate) を一括して発注する方式で、施設整備や管理運営のノウハウを活用する手法。(国庫補助金も利用可能)

<DBO方式によるメリット>

- ・運営事業者の提案、創意工夫を設計段階から反映させることで、動物に最適な飼養環境、利用者ニーズに沿った多彩な動物愛護プログラムの提供、効率的な管理が期待できる。
- ・一括発注による手続きの簡素化、施工者の工期短縮の工夫を設計に反映することにより、設計、施工の期間短縮が期待できる。(活用を予定している国庫補助金(環境省)は単年度事業が要件となっており、設計・施工を1年間で完了する必要がある)
- ・維持管理までを見越した設計ができ、性能発注により民間単価で施工されるため、従来の方式に比べて、建設・管理コストの削減が期待できる。

## 3 今後のスケジュール (予定)

- ・令和4年9月議会 設計・建設・運営等の事業関連予算の提案
- ・令和4年度末 民間事業者の選定
- ・令和5年度 設計・建設工事  
現行の犬管理所における休日の飼養管理及び動物愛護等を委託
- ・令和6年度～ 新たな犬猫センターにて、平日の飼養管理、動物愛護及び捕獲収容等を委託

<スケジュール（検討案）>

年度 (業務場所)	R 4 (犬管理所)		R 5 (犬管理所)				R 6 (犬猫センター)
事業者選定	補正予算・債務負担行為 ●(R4.9月) 事業者選定 (R4.10～R5.3月)						
設計・建設			設計・工事 (設計 R5.4～8月) (工事 R5.8～R6.1月)				
					引越・準備 (R6.2～3月)		
管理運営			現行犬管理所の飼養管理(休日)委託 ※業務習熟期間				
						犬猫センターの管理運営	

【参考】これまでの検討経過

(1) 鳥取県西部犬猫センター設置検討会の結果

令和3年度に有識者、獣医師、動物ボランティア団体等の委員6名で構成する「鳥取県西部犬猫センター設置検討会」設置、3回(12月4日～3月26日)開催し、施設整備及び運営のあり方等をとりまとめた。検討事項：新施設が担う機能、整備方針、官民連携のあり方、譲渡促進、事業者の公募・選定の方針等  
主な意見：民間いきなり全体を委託すると円滑にいかない恐れもあり、当面は県のハンドリングが必要。譲渡会や飼い主への啓発等により、処分する命を増やさない、蛇口を締める取組みが必要。

(2) 地元への説明結果

令和4年2月～5月に地元自治会、皆生温泉旅館組合、米子市観光協会、皆生プレイパーク運営委員会等へ回覧や訪問等により整備計画を説明・周知し、反対意見は寄せられていない。

(3) 運営事業者向け事業説明・意見交換会（7月5日開催）の結果

- ・動物愛護団体、ペット関連事業者など14者が参加、8者から回答があり、5者が参加意向を示した。
- ・参加意向を示した5者のうち、4者がDBO方式を希望、残り1者は希望なしであった。
- ・参加事業者の中には事業参加は難しいが、事業に何らかの支援をしたいとの意向もあった。

(4) 設計・建設事業者向け事業説明・意見交換会（7月14日開催）の結果

- ・設計事務所、ゼネコンなど17者が参加、うち10者から回答があり、7者が参加意向を示した。
- ・管理運営者と連携する必要があり受注機会が少なくなる等の理由から、分割発注を望む意見は4者、DBO方式を望む意見は2者あった。

## 鳥取らしい“木を活かした塀”デザインコンテストの実施について

令和4年8月19日  
住まいまちづくり課

県産材の利用拡大、地域の景観形成に資する木塀の普及を目的として、木塀のデザインや設置事例等を紹介するPR冊子を作成することとしており、この度、当該冊子に掲載する木塀のデザインを広く募るコンテストを実施しているため、概要を報告する。

### 1 募集期間

令和4年8月8日（月）から12月23日（金）まで

### 2 応募資格

鳥取県内に在住又は通勤・通学されている方

### 3 募集内容

住宅などの敷地周囲や庭に設置する「木を活かした塀」のデザイン

- ・現実に設置・施工が可能なデザイン（実際に施工したものも可）
- ・植栽や生垣と組み合わせたものも可能
- ・防災やメンテナンス面、伝統的な建築技能や、コミュニケーションが生まれる仕掛けを盛り込んだものなど、様々なアイデアや工夫を歓迎

### 4 表彰

- ・グッド木塀賞（1～2名）：2万円
- ・ナイス木塀賞（5名程度）：記念品

### 5 審査方法

審査は、造園、建築設計、建築施工、木材及び建築行政の各分野の専門家で構成する審査委員会により①美観・デザイン、②安全性、③維持保全、④汎用・モデル性、⑤創意工夫の5項目に、⑥総合として、審査員の判断で優れているものに加点したものにより評価する。

### 6 提出物

以下の内容をA4又はA3用紙サイズで提出することとし、様式・枚数は問わない。

- ①デザインの趣旨・内容
- ②外観デザイン（イラスト・模型写真等でも可）
- ③外寸や、使用する木材・支柱等の寸法がわかる図面（縮尺1/20の立面図は必須。その他、断面図や詳細図などを記載することは妨げない。）

### 7 鳥取らしい木塀の普及に向けたPR冊子の作成

コンテスト応募作品は、県内の木塀施工事例、木塀設置に活用できる補助制度等と併せてPR冊子を作成し、工務店、造園業者等に配布するとともに、市町村においてブロック塀の改修等を検討している方に情報提供を行うなど木塀の普及に活用していく。

#### 【参考】県庁本庁舎1階ロビーでの木塀のPR展示（期間：令和4年8月1日～22日）

鳥取県木材協同組合連合会が制作された県産杉材による木塀パネルを展示しており、木塀の良さをPRするとともにコンテストの開催を周知している。



# 令和3年度鳥取県天神川流域下水道事業の経営状況について

令和4年8月19日  
水環境保全課

## 1 経営状況

令和3年度天神川流域下水道事業の純損益は1億16百万円の黒字となった。  
前年度に比べ、施設の改築工事に伴う既存資産の除却がなかったことによる除却費及び除却損（資産減耗費）の皆減が黒字幅拡大の主な要因となっている。

## 2 今後の見通し

令和2年度に策定した経営戦略に基づく効率的な経営を推進することにより、令和4年度も黒字となる見通しである。経営戦略での想定である今後10年間の単価据置が実現できるよう、指定管理者による効率的な処理場の運営やストックマネジメント計画に基づく施設改築費の平準化等を行い、引き続き安定経営の確保に努める。

なお、最近の燃料価格の高騰が維持管理費用の増加に影響しており、注視していく必要がある。

### ○損益等の状況

(税抜、単位：千円)

区分	3年度	2年度	増減	備考
営業収益	636,890	453,260	183,630	
管理事業費負担金	636,724	448,954	187,770	負担金（資本費回収分）の営業外収益からの振り替え
建設事業費負担金	166	4,306	△ 4,140	
営業費用	1,121,125	1,150,047	△ 28,922	
管渠費	1,692	2,792	△ 1,100	
処理場費	416,375	405,362	11,013	委託料（指定管理料）の増
総係費	17,316	17,554	△ 238	
減価償却費	685,742	659,322	26,420	
資産減耗費	0	64,961	△ 64,961	資産除却がなかったことにより皆減
その他	0	56	△ 56	
営業損益	△ 484,235	△ 696,787	212,552	
営業外収益	627,505	830,454	△ 202,949	
管理事業費負担金	0	181,562	△ 181,562	資本費回収分。R3は営業収益へ振り替え
長期前受金戻入	555,209	574,890	△ 19,681	資産除却がなかったことにより減
その他	72,296	74,002	△ 1,706	
営業外費用	27,446	30,492	△ 3,046	
支払利息等	20,586	21,939	△ 1,353	
雑支出	6,860	8,553	△ 1,693	
経常損益	115,824	103,175	12,649	
特別利益	0	1,182	△ 1,182	
特別損失	0	0	0	
当年度純利益	115,824	104,357	11,467	

### ○資本的収入・支出の状況

(税込、単位：千円)

区分	3年度	2年度	増減	備考
資本的収入	199,875	1,271,180	△ 1,071,305	
国庫補助金	95,365	729,640	△ 634,275	工事量の減
建設事業費負担金	47,682	269,506	△ 221,824	〃
企業債	43,000	257,000	△ 214,000	〃
他会計負担金等	13,828	15,034	△ 1,206	
資本的支出	432,726	1,412,520	△ 979,794	
建設改良費	195,443	1,250,198	△ 1,054,755	工事量の減
企業債償還金	93,283	90,813	2,470	
他会計借入金償還金	144,000	71,509	72,491	
差引	△ 232,851	△ 141,340	△ 91,511	

### ○内部留保資金の状況

(単位：千円)

区分	3年度	2年度	増減	備考
内部留保資金	499,045	480,000	19,045	

## 第13回中海会議の開催結果について

令和4年8月19日  
総合統括課  
水環境保全課  
農地・水保全課  
水産振興課  
河川課

沿岸住民の生命と財産を守り、美しい中海の自然環境を次代に引き継ぐため、中海に関する諸問題を協議検討する第13回中海会議を以下のとおり開催しました。

(参考) 中海会議とは

平成21年12月19日に締結した鳥取、島根両県知事の「協定書」を踏まえ、沿岸住民の生命と財産を守り、美しい中海の自然環境を次代に引き継ぐため、新たに中海の水に関する諸問題を協議検討するため設置（平成22年4月22日）した会議。

※個別課題の検討・調整を行うため、次の4つの部会等を設置している。

- ①中海湖岸堤等整備にかかる調整会議 ②中海の水質及び流動会議 ③中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ  
④中海の利活用に関するワーキンググループ

1 日時 令和4年8月17日（水）午後2時から3時半まで

2 場所 米子ワシントンホテルプラザ（ウェブを併用したハイブリッド開催）

3 出席者（※印はウェブ出席）

国土交通省中国地方整備局長（※）、農林水産省中国四国農政局長（※）、鳥取県知事、島根県知事、米子市長、境港市長（※）、松江市長、安来市長（※）

<オブザーバー> 環境省（中国四国地方環境事務所環境対策課長）（※）、防衛省（美保基地第3輸送航空隊装備部長）

### 4 概要

#### (1) 中海及び境水道の堤防、護岸等の整備について

○部会「中海湖岸堤等整備に係る調整会議」（事務局：中国地方整備局出雲河川事務所）から、中海湖岸堤整備の進捗状況等について報告が行われ、大橋川拡幅の前段階で中海湖岸堤を先行して時系列的に整備するという手順どおり、引き続き湖岸堤整備が進められることについて確認がなされた。

[報告の概要]

- ・中海湖岸堤の短期整備箇所については、鳥取・島根両県ともに完了しており、短中期整備箇所の整備を促進している。
- ・このうち、境港市西工業団地（貯木場北）が今年度で完成する見込みであり、米子市葭津については今年度工事を実施・完了予定である。また、米子市が策定した「中海・錦海かわまちづくり計画」に基づき、現在県が栈橋整備中の米子市灘町（米子港防波堤）については、来年度引き続き国が護岸整備を行い完成となる予定。
- ・中期整備箇所の米子市灘町（米子港野積場）については、民間の開発事業による背後地の嵩上げと合わせた一体的な整備に向けた検討を行う。

[主な意見]

- ・地球温暖化などの影響に伴う中海の水位上昇を勘案し、湖岸堤整備を前倒しで進捗するとともに、水位上昇のメカニズムの解明について、幹事会で研究を深めて頂きたい。（鳥取県知事）
- ・米子地区の湖岸堤整備は順調に進んでいるが、高潮が頻発化してきているため、高潮や水位の上昇の研究をお願いしたい。（米子市長）
- ・短中期、中期整備箇所の湖岸堤の早期の完成を望む。また、今年から「雨水管理総合計画」の策定と、浸水被害の大きかった外江地区の雨水幹線等の整備に着手しており、引き続き支援いただきたい。さらに、境水道沿いの外江地区については、斐伊川水系河川整備計画において、市の内水計画が整い次第整備するというようになっており、引き続き市と国とで調整しながら進めていきたい。（境港市長）

#### (2) 中海の水質及び流動について

○部会「中海の水質及び流動会議」（事務局：鳥取県生活環境部水環境保全課）から、令和3年度の水質状況、改善に係る流入負荷対策及び湖内負荷対策の取組について報告が行われ、引き続き、現地での実証実験やシミュレーション等を行い、中海の効果的な水質浄化対策を講じていくことが確認された。

[報告の概要]

- ・令和3年度の水質は、COD（化学的酸素要求量）が環境基準点12地点のうち、11地点で水質目標値を達成したが、全12地点で達成できていないことから目標未達成となった。一方で、全窒素、全りんは全12地点で

水質目標値を達成し、目標達成となった。

- ・下水道整備や道路路面の清掃をはじめとする様々な取組により、中海全体の水質は長期的には改善傾向にある。また、米子湾の透明度は令和3年度に2メートルとなり、令和2年度に引き続き目標値を達成した。
- ・国交省の湖内対策の事業として覆砂や浅場造成が実施されており、覆砂による栄養塩の溶出抑制や浅場造成によるアサリの個体数の増加や海草藻類の増加が確認された。
- ・令和3年度の取組として、流入負荷対策では米子湾エリアの流動と河川からの流入負荷の広がりを見視化。上層と下層で米子湾奥部に向かう流れが確認されることや、加茂川・新加茂川流域からの影響は米子湾奥部にとどまる一方で、伯太川・吉田川及び飯梨川流域からの影響は中海の湖心や米子湾奥部に広がっていることを確認した。
- ・湖内負荷対策では、米子湾エリアの底質や窪地調査を実施し、窪地の底質に含まれる水には硫化水素が多く含まれていることを確認した。また米子市中央ポンプ場沖においてファインバブルによる底質改善効果の検証実験を継続しており、底質の改善効果が確認できた。

[主な意見]

- ・加茂川の河口近くでシジミが生息していることを確認した。これは中海の浄化が進んでいる一つの効果ではないかと思っている。(米子市長)
- ・覆砂は有効であるという話があったので、計画通り実施してほしい。また更なる覆砂箇所は無いのか検討してほしい。(米子市長)
- ・浅場造成や覆砂により漁業資源が回復し、海草藻類の生育に効果があると示された。引き続きしっかりと実施してほしい。(境港市長)
- ・市内の農業法人が今年有機 JAS 認証になる水稻を 10 ヘクタールで作られており、化学肥料を使わないことで流入負荷の軽減になると考えている。流入負荷への取組もこれから気を付けてやっていきたい。(安来市長)

### (3) 中海沿岸農地の排水不良について

- 「中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ」(事務局：米子市経済部) から、中海沿岸農地の排水不良改善の取組状況について資料提供がなされるとともに、引き続き、関係機関が公共残土に関する情報の共有化を図り、客土(農地嵩上げ)材としての公共残土受入れを促進していくことについて確認がなされた。

[報告の概要]

- ・崎津モデルほ場(A=3.3ha)において、令和3年度はA=0.1ha、令和4年度分は0.5haの合計0.6haの客土を実施し、全体進捗が78%となった。また、令和元年度から彦名地区(A=0.7ha)で排水対策工事に着手し、令和4年12月には完了見込みとなった。
- ・対策農地における営農改善が図られ、ねぎなど栽培が可能となったと農業者から評価を受けた。

[主な意見]

- ・整備済み農地では作物栽培が可能となるなど成果があった。なお、調達する客土材は対策農地と同一土質でなければ農家も栽培する作物について選択できない。(米子市長)
- ・国土交通省・農林水産省及び両県における残土情報について調整をお願いする。(鳥取県知事)

### (4) 中海の利活用について

- 「中海の利活用に関するワーキンググループ」(事務局：島根県政策企画局) から、中海の利活用に係る取組状況等について資料提供がなされるとともに、今後の取組について意見交換が行われた。

[報告の概要]

- ・中海周辺のサイクリング推進に向け、サイクリスト支援体制の強化や、中国5県によるサイクリングマップの充実・活用、キャンペーンの実施等に取り組んでいく。
- ・中海・宍道湖一斉清掃や中海オープンウォータースイム2022の開催など、新型コロナの感染対策を行いながら、コロナ禍でも可能な範囲で利活用事業を実施している。
- ・米子港のウォーターフロント開発の促進等、中海ワイズユースと連携した地域活性化に寄与する拠点づくりを進め、中海周辺の賑わいの創出を図っていく。
- ・中海の漁獲量と組合員数が近年減少傾向にあるが、中海で獲れるスズキやタイワンガザミなどは資源活用されており、また、オダエビ、アカバイなどは今後の活用が期待できる。

[主な意見]

- ・中海サイクリングコースについて、走りやすいコースになるよう沿岸自治体で少しずつでもハード整備を進めるとともに、走行地点や目標までの距離、休憩所、飲食できる場所の情報提供など、観光客が走ってもわかりやすいコースとなるようソフト対策も進めていくことができたらと思う。(米子市長)
- ・水質と漁獲量の関係性など、引き続き分析・検討を進め、現状の課題・対応策等について今後も中海会議に報告いただきたい。(松江市長)

# 1 令和3年度環境基準・水質目標値達成状況等について

○中海全体の水質は長期的に改善傾向であり、第7期湖沼水質保全計画（R1～R5）の水質目標値について、CODは未達成であった。全窒素、全りんは達成した。

図1-1 中海の環境基準点の位置図



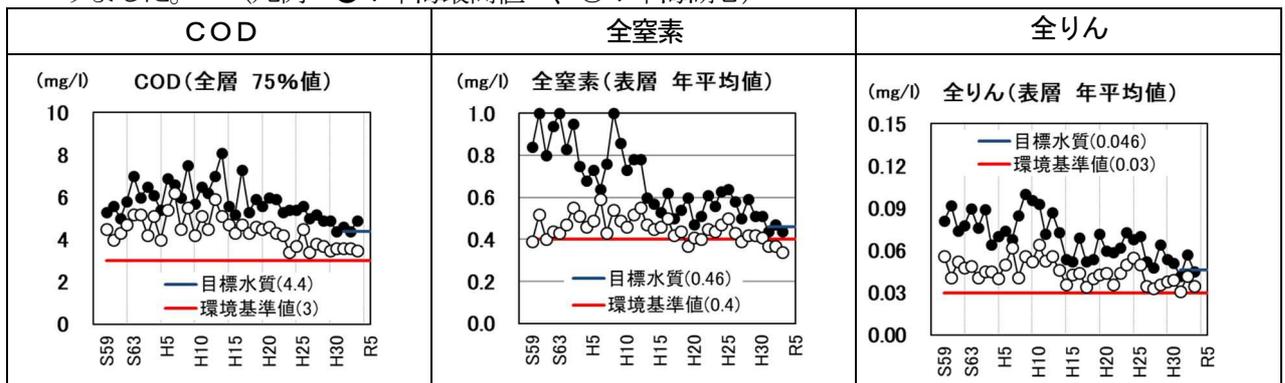
図1-2 中海の環境基準点の測定結果

地点	単位:mg/L		
	COD (全層 75%値)	全窒素 (表層 年平均値)	全りん (表層 年平均値)
T-1	2.3	0.30	0.033
T-2	2.9	0.30	0.025
T-3	4.9	0.44	0.045
N-1	4.0	0.41	0.042
N-2	3.9	0.39	0.040
N-3	3.8	0.36	0.035
N-4	3.8	0.37	0.035
N-5	4.3	0.39	0.040
N-6	3.5	0.34	0.035
N-7	2.9	0.29	0.025
NH-1	3.7	0.29	0.03
NH-2	4.1	0.30	0.03

— 環境基準値 (COD 3 全窒素 0.4 全りん 0.03)  
- - - 水質目標値 (COD 4.4 全窒素 0.46 全りん 0.046)

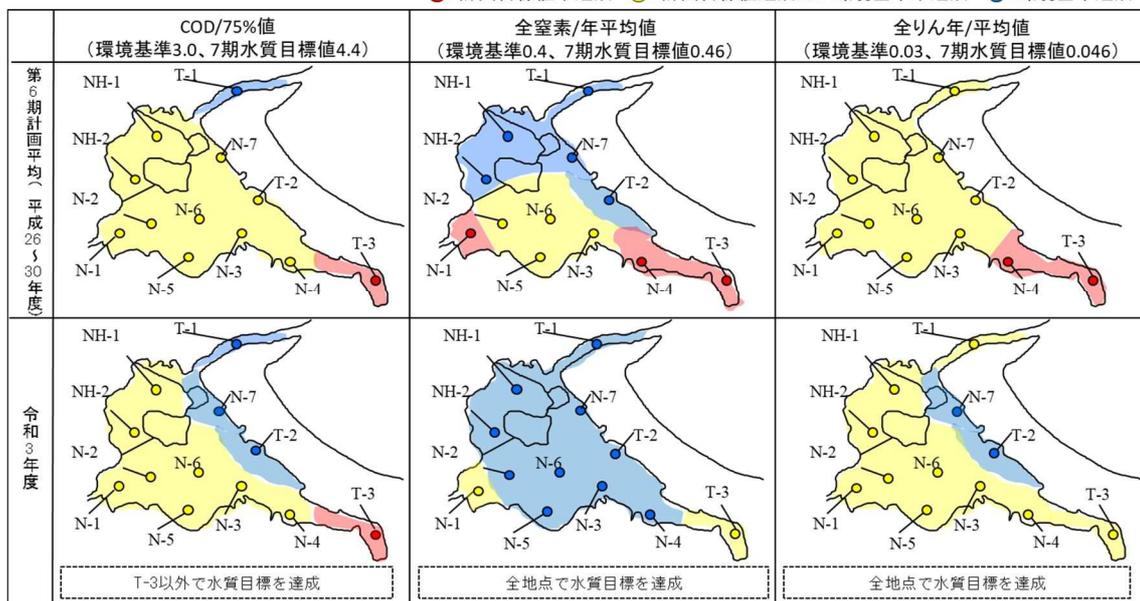
(参考1) 経年変化（中海湖心（N-6）と各年度において最も高い地点の傾向分析）

- ・全項目（COD、全窒素、全りん）で長期的に改善傾向です。
- ・全窒素は令和3年度、中海湖心で測定を開始した昭和59年以来最も良い値（0.34mg/l）となりました。（凡例 ●：中海最高値、○：中海湖心）



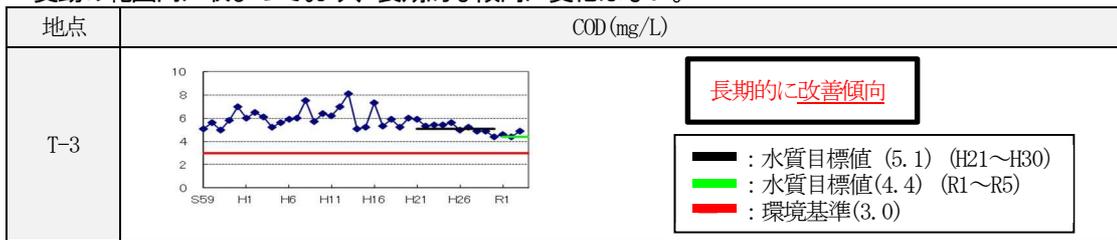
(参考2) 令和3年度結果のイメージ（第6期湖沼水質保全計画期間H26-H30との比較）

●：計画目標値未達成 ○：計画目標値達成だが環境基準未達成 ●：環境基準達成



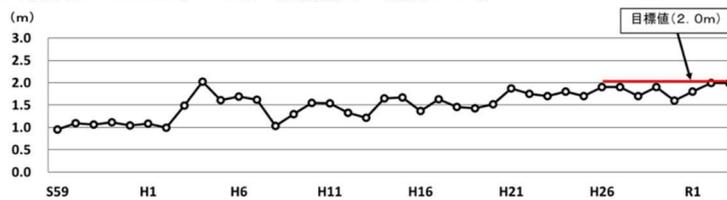
### (参考3) 水質目標未達成地点の経年変化

- ・米子湾 (T-3) では、CODについて昨年度より悪化し水質目標値は未達成となった。しかし、過去数年の変動の範囲内に収まっており、長期的な傾向に変化はない。



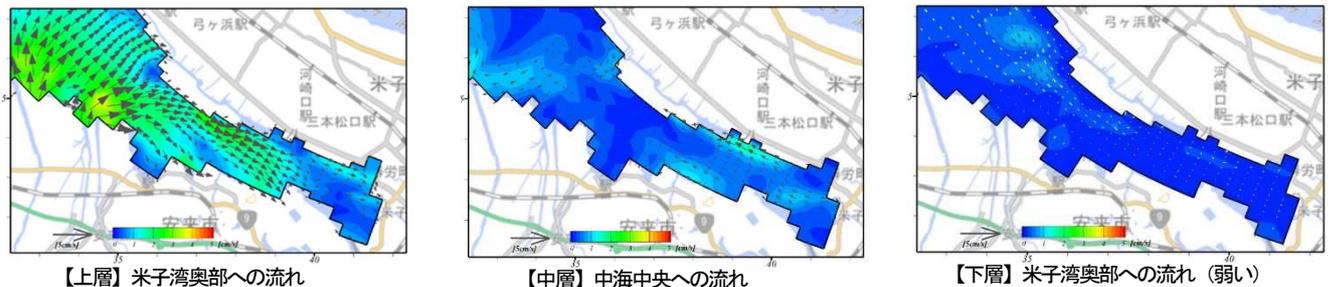
### (参考4) 米子湾における透明度の経年変化

- ・レクリエーション等で多くの人が集まる機会があり、水質改善の必要性が高い米子湾において評価している。透明度は長期的に上昇 (改善) 傾向にあり、30~40年前の年平均値は1m程度であったが、昨年度に続き令和3年度も2.0mとなった。(目標値: 概ね2m)

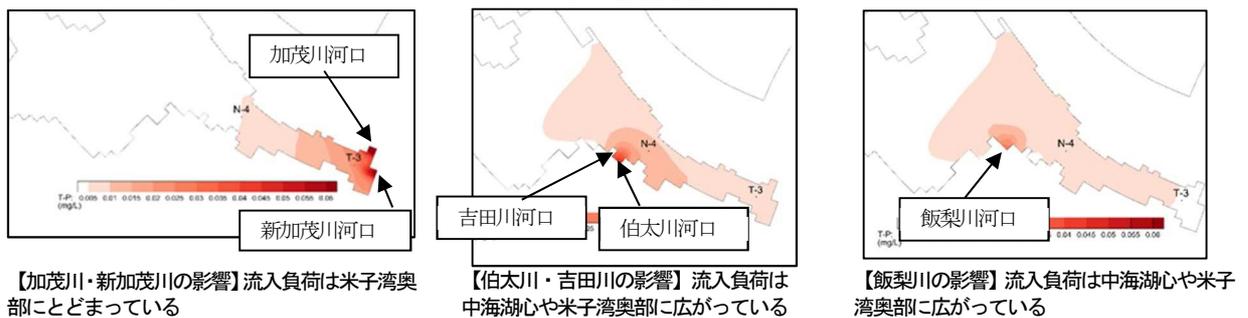


## 2 令和3年度水質流動会議報告事項

### ○米子湾エリアにおける流動解析 (流動の大きさを矢印と湖面の着色で可視化 (年間平均))



### ○米子湾エリアの河川の流入負荷の広がりの影響度調査 (全りんの広がりを着色して可視化)



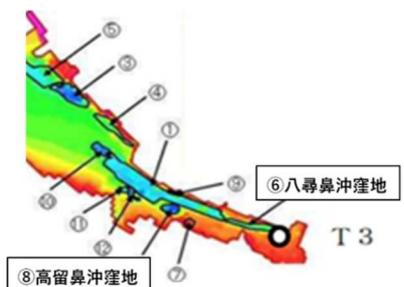
### ○米子湾エリアの底質成分のモニタリング及び米子湾窪地調査



【底質調査地点の位置図】

地点名	硫化水素濃度 (mg/L)
ア: 米子湾中央部 (T-3 地点)	25
イ: 窪地 (八尋鼻沖窪地)	49
ウ: ボンブ場沖	37
エ: ファインバブル供給口	18
オ: 新加茂川河口	0.22

【底質内の水に含まれる硫化水素濃度】



【米子湾窪地の位置図】

図中の⑥、⑧の2つの窪地の底質内に含まれる水と窪地の水を調査した。

- ・米子湾エリアの底質内の水に含まれる硫化水素濃度を確認したところ、窪地は他の地点に比べて高い濃度であることを確認した。

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

令和4年8月19日  
生活環境部

【新規分】

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	入札方式
くらしの安心局 水環境保全課 (中部総合事務所 県土整備局)	天神川流域下水道事業幹線管渠更生 工事(その15)	倉吉市 清谷外	株式会社井木組 代表取締役 井木 敏晴	127,490,000円 (予定価格) 138,833,200円	令和4年8月2日 ~令和5年3月15日	令和4年8月2日	制限付 一般競争入札 (3社)